

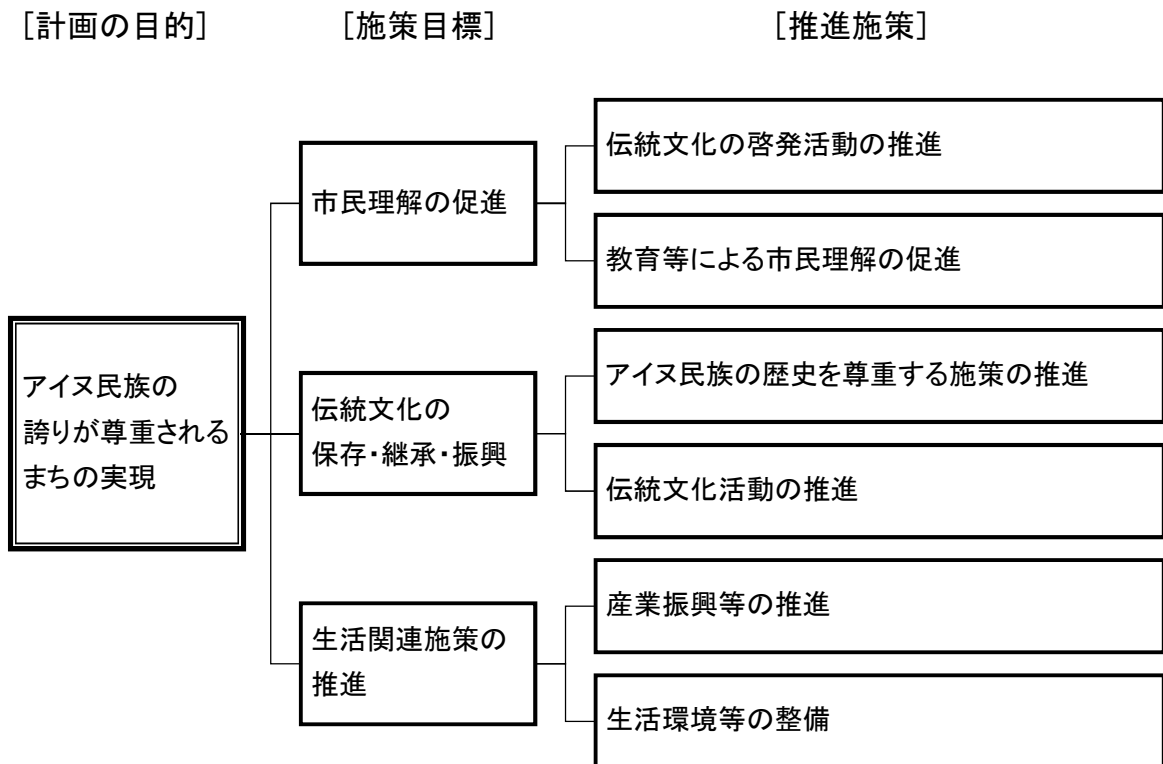
# 第3章 現状と課題

## 1 前計画の取組

平成22年（2010年）9月、概ね10年間をめどとして、本市が取り組むアイヌ施策の基本的な考え方や具体的な取組の内容などを整理し、総合的かつ計画的にアイヌ施策を推進していくため、「札幌市アイヌ施策推進計画」を策定しました。そして、計画の目的として定めた「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、これまで様々な施策を推進してきました。

### ■前計画の体系

計画の目的である「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向け、3つの施策目標を定め、6つの推進施策に取り組みました。



## 施策目標 1 市民理解の促進

「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向けて、その歴史や伝統文化について市民理解の促進を図るため、様々な形での啓発活動や、児童・生徒の教育に関する施策の推進に取り組んできました。

### ■推進施策 1 伝統文化の啓発活動の推進

事業名	概要
アイヌ文化体験講座の開催	札幌市アイヌ文化交流センターなどで、アイヌ民族の伝統に基づく刺しゅうや木彫りの制作など、アイヌ文化を体験する講座を開催しました。 【年間参加者数】H22：146人 → R元：180人
アイヌアート・モニュメント <sup>4</sup> の制作・展示	アイヌ民族が制作したタペストリー <sup>5</sup> や、アイヌ民族と市民が共同制作したタペストリーを、札幌駅前通地下歩行空間などで展示しました。
札幌市アイヌ文化交流センターイベントの実施	札幌市アイヌ文化交流センターで、伝統楽器の演奏や舞踊の披露などを行うイベントを開催しました。 【年間参加者数】H22：608人 → R元：1,464人
アイヌ語に関する啓発	「イランカラフテ」キャンペーン <sup>6</sup> の推進を中心として、アイヌ語に関する啓発を行いました。
「シーニックバイウェイ北海道 <sup>7</sup> 」との連携	「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」の構成団体として、エリア内の観光施設と連携しながら、札幌市アイヌ文化交流センターの利用促進を図りました。
大型イベントと連携した情報発信	「さっぽろ夏まつり」など、多くの市民や観光客が集うイベントの開催に合わせ、伝統楽器の演奏や舞踊の披露など、アイヌ民族の伝統文化に関する情報発信事業を実施しました。
アイヌ文化を発信する空間「ミナパ <sup>8</sup> 」の設置	平成31年（2019年）3月、地下鉄南北線さっぽろ駅構内に、アイヌ文化を発信する空間「ミナパ」を設置し、アイヌ工芸品作家の作品展示や、札幌市アイヌ文化交流センターなどのアイヌ関連施設の広報を行いました。

4 【モニュメント】記念建造物。記念碑・記念像など。

5 【タペストリー】主に壁掛けなどに用いられる室内装飾用の織物。

6 【「イランカラフテ」キャンペーン】民間企業や行政機関などの連携により、アイヌ語のあいさつ「イランカラフテ（アイヌ語で「こんにちは」の意。）」を北海道のおもてなしのキーワードとして普及させる取組。

7 【シーニックバイウェイ北海道】地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら、個性的な地域や美しい環境づくりを目指す取組。

8 【ミナパ】アイヌ語で「大勢が笑う」の意。

## ■推進施策2 教育等による市民理解の促進

事業名	概要
ゲストティーチャー <sup>9</sup> 、アイヌ教育相談員 <sup>10</sup> による授業の実施	小学校や中学校で、ゲストティーチャーとして迎えたアイヌ民族や、アイヌ教育相談員により、アイヌ民族の伝統文化体験などを取り入れた授業を実施しました。
副読本 <sup>11</sup> や民具 <sup>12</sup> などの活用	アイヌ民族の歴史や伝統文化に関する副読本や映像資料、民具などを教材として活用しました。
小中高校生団体体験プログラムの提供	札幌市アイヌ文化交流センターで、小学生から高校生までを対象として、展示品の解説のほか、アイヌ民族の伝統文化を体験するプログラムを提供しました。 【年間参加校数】H22：34校 → R元：55校
小中高校生団体出前体験プログラムの提供	札幌市アイヌ文化交流センターへの来館が困難な学校に出向き、校内でアイヌ民族の文化体験を行うためのプログラムを提供しました。 【年間実施校数】H28（開始）：9校 → R元：35校
教職員研修の実施	教職員を対象として、アイヌ民族の歴史や伝統文化について理解を深める研修を実施しました。
アイヌ民族に関する指導資料の作成・活用	アイヌ民族の歴史などについて、指導上の基本的な考え方などをまとめた指導資料を作成し、授業などに活用しました。
市職員研修の実施	本市の新採用職員や新任課長などを対象として、アイヌ民族の歴史や伝統文化について理解を深める研修を行いました。



小中高校生団体体験プログラムでの輪踊りの体験や屋外展示物の見学

9 【ゲストティーチャー】指導者として特別に学校に招いた地域の市民など。

10 【アイヌ教育相談員】アイヌ民族の児童・生徒の教育実態の把握や教育相談業務などを行う職員。

11 【副読本】教科書の補助的教材として使用する図書。

12 【民具】日常生活に使用する用具の総称。衣服や装身具、狩猟用具、儀礼の道具など。

## 施策目標 2 伝統文化の保存・継承・振興

「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向けて、アイヌ民族の伝統文化の保存・継承・振興を図るため、市内の遺跡の保存や出土資料の展示、伝統的な生活空間の再生などに取り組んできました。

### ■推進施策 1 アイヌ民族の歴史を尊重する施策の推進

事業名	概要
「サッポロさとらんど <sup>13</sup> 」の遺跡の保存	アイヌ民族から要望のあった「サッポロさとらんど」敷地内の遺跡を保存しました。
札幌市埋蔵文化財センターの展示の見直し	札幌市埋蔵文化財センターの展示室で、アイヌ文化期 <sup>14</sup> の出土資料の展示や、旧石器時代からアイヌ文化期に至る通史展示を行いました。

### ■推進施策 2 伝統文化活動の推進

事業名	概要
アイヌ民族の伝統的な生活空間（イオル <sup>15</sup> ）の再生	アイヌ民族の伝統的な生活空間（イオル）をイメージして、伝承活動に必要なとなる植物や穀物などの自然素材の育成や、伝統文化の体験イベントを開催しました。
札幌市アイヌ文化交流センターの運営	札幌市アイヌ文化交流センターで、アイヌ民族の民具 <sup>※12</sup> などを展示するほか、伝統文化の体験イベントを開催しました。また、館内に民族衣装を試着できる記念撮影コーナーを設置したほか、展示案内の多言語化に向けた環境の整備などにも取り組みました。 【年間来館者数】H22：47,586人 → R元：58,241人
札幌市アイヌ文化交流センターへの指定管理者制度 <sup>16</sup> 導入の検討	本市が管理運営を行う、札幌市アイヌ文化交流センターについて、指定管理者制度の導入に向けた検討を進めてきましたが、施設運営の効率性と、アイヌ文化に関する専門性を両立する体制の確保が整わず、前計画期間中の導入には至りませんでした。
伝統文化の担い手育成の支援	文化体験講座などの講師を勤める機会や、アイヌ民工芸品販売会へ作品を出品する機会の提供などを通じ、伝統文化の担い手の育成を支援しました。

13 【サッポロさとらんど】東区丘珠町に設置した、季節野菜の収穫体験や各種講座などを行う「札幌市農業体験交流施設」の愛称。

14 【アイヌ文化期】本州の中世から近世に相当し、北海道の考古学上の時代区分として使用される名称。

15 【イオル】アイヌ語で「深山、狩場」の意。アイヌ民族が狩猟や採取を行う、生活の場としての空間。

※12 【民具】日常生活に使用する用具の総称。衣服や装身具、狩猟用具、儀礼の道具など。

16 【指定管理者制度】公の施設の管理に民間の能力を活用し、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図る制度。

### 施策目標 3 生活関連施策の推進

「アイヌ民族の誇りが尊重されるまちの実現」に向けて、アイヌ民族の社会的・経済的地位の向上を図るため、アイヌ民工芸品を販売する機会の確保や生活環境の整備に取り組んできました。

#### ■推進施策 1 産業振興等の推進

事業名	概要
アイヌ民工芸品販売会の開催	札幌駅前通地下歩行空間で、アイヌ民工芸品の市場調査などを行うため、アイヌ民工芸品の販売会を開催しました。 【出品者数】H22：4人 → R元：7人
アイヌ民工芸品のブランド <sup>17</sup> 化	アイヌ民工芸品作家や、商品製造業者などを対象とした調査を実施し、アイヌ民工芸品の商品開発など、ブランド化に向けた取組を開始しました。

#### ■推進施策 2 生活環境等の整備

事業名	概要
アイヌ生活相談員 <sup>18</sup> の配置	アイヌ民族の生活実態の把握や、アイヌ民族からの各種生活相談に応じるため、アイヌ生活相談員を配置しました。 【年間相談件数】H22：2,642件 → R元：1,264件
アイヌ教育相談員 <sup>※10</sup> の配置	アイヌ民族の児童・生徒の教育実態の把握や、アイヌ民族の児童・生徒、または保護者からの教育相談に応じるとともに、アイヌ民族の歴史や伝統文化の普及啓発を行うため、アイヌ教育相談員を配置しました。 【年間相談件数】H22：671件 → R元：347件
アイヌ民族の児童・生徒への学習支援	平成24年度（2012年度）より、アイヌ民族の児童・生徒を対象として、夏季と冬季の長期休業期間に合わせ、学習支援を行いました。 【年間参加者数（延べ）】H24（開始）：20人 → R元：55人
市街地に相談・交流の場を確保	札幌市共同利用館 <sup>19</sup> の代替施設の確保に向け、検討を進めてきましたが、市街地に場所を確保することができず、前計画期間中の具体化には至りませんでした。

17 【ブランド】提供される商品・サービスについて、他の商品・サービスと区別するために用いられる特徴。

18 【アイヌ生活相談員】アイヌ民族の生活実態の把握や、アイヌ民族の各種生活相談業務を行う職員。

※10 【アイヌ教育相談員】アイヌ民族の児童・生徒の教育実態の把握や、アイヌ民族の教育相談業務などを行う職員。

19 【札幌市共同利用館】市民の生活文化の向上や社会福祉の増進を目的として、アイヌ民族からの生活上の各種相談対応などを行う施設。

## 2 意見交換会

本計画の策定に先立ち、アイヌ民族の視点から見た現状を把握するため、アイヌ文化の保存・継承・振興などに関わる活動を行うアイヌ関連団体と、意見交換会を行いました。

※ 意見交換会の詳細は、巻末の資料2をご覧ください。

### ■主な意見

区 分	意 見
伝統文化の継承について	アイヌ語を継承する習慣がなくなっており、アイヌ語を話せる人が少なくなっている。
	若い世代が、年長者からアイヌ民族の伝統文化を学ぶ機会がなくなっている。
	アイヌ文化を継承していきたいという思いがあっても、生活を優先せざるを得ない状況にある。
	一般向けの文化体験事業はあるが、アイヌ民族間で伝統文化を継承することを目的として行われている取組がない。
	アイヌ民族であることを理由として、伝統文化の実践や継承を強要されたくない。
アイヌ民族に関する理解の促進について	生活の中で、自然にアイヌ文化に触れられる環境がよいと思う。
	アイヌ文化に関心がありながらも、関連するイベントなどの情報を得られていない人が多いと思う。
	子どもの頃から、アイヌ文化に触れる機会があればよいと思う。
札幌市アイヌ文化交流センターについて	札幌市アイヌ文化交流センターの展示に関する案内や、催事などを充実させてほしい。
アイヌ民芸品の販売について	札幌からアイヌ文化を発信するための拠点として、観光客が集まる場所に、アイヌ民芸品の販売場所があればよいと思う。
	海外からの観光客などにアイヌ文化を紹介する上で、確かな品質のアイヌ民芸品を購入できる販売場所にしなければならない。
その他自由意見	アイヌ文化と言えば特別視されがちだが、文化の違いによらず、互いを尊重できるまちななればよいと思う。
	アイヌ文化を体験する機会ができれば、アイヌ民族に関するイメージも変わってくるのではないかと思う。
	アイヌ施策に取り組む上で、意見交換の機会を定期的に設けるなど、アイヌ民族と共に考えてほしい。

### 3 市民意識調査

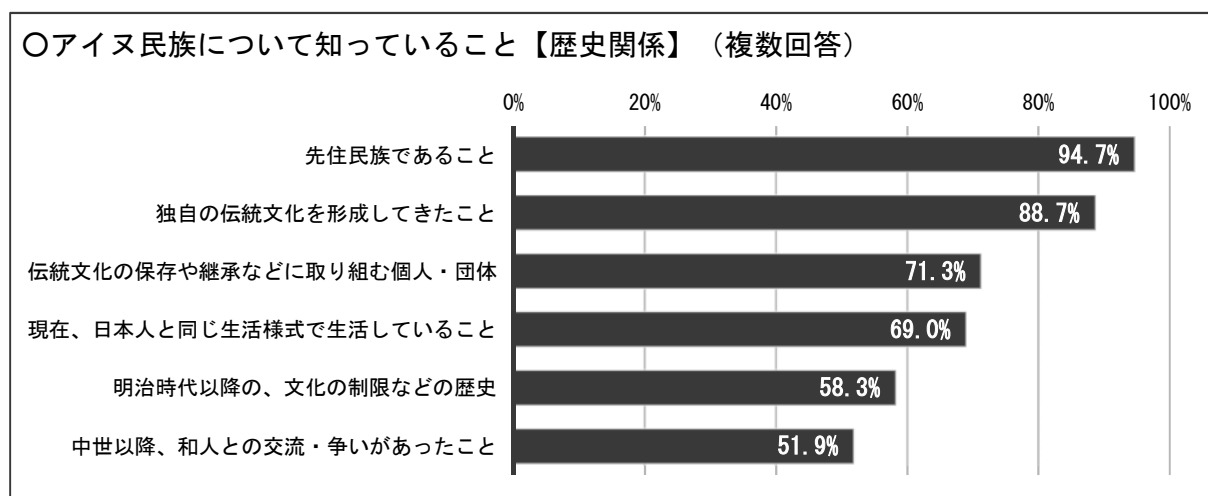
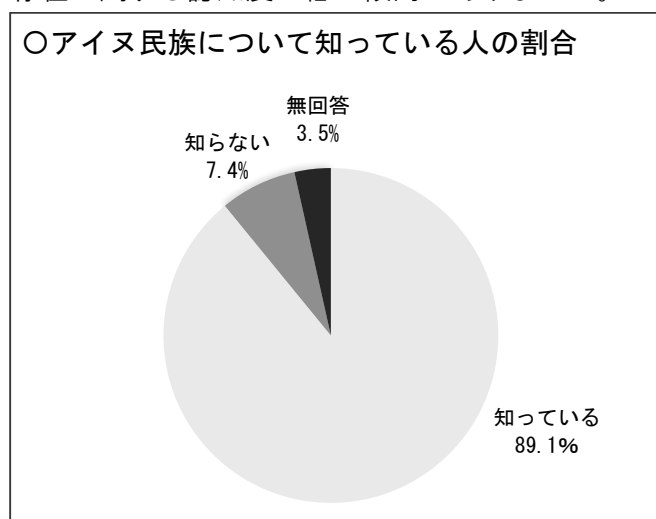
本市では、各種施策などの周知度や要望を把握し、施策推進の参考とするため、無作為に選ばれた18歳以上の市民を対象として、市政に関するアンケート調査「市民意識調査」を実施しています。

本計画の策定に先立ち、市民の視点から見たアイヌ施策の現状について把握するため、令和2年度第1回市民意識調査に際し、本市のアイヌ施策に関する質問項目を設け、調査を実施しました。

※ 令和2年度第1回市民意識調査結果の詳細は、巻末の資料3をご覧ください。

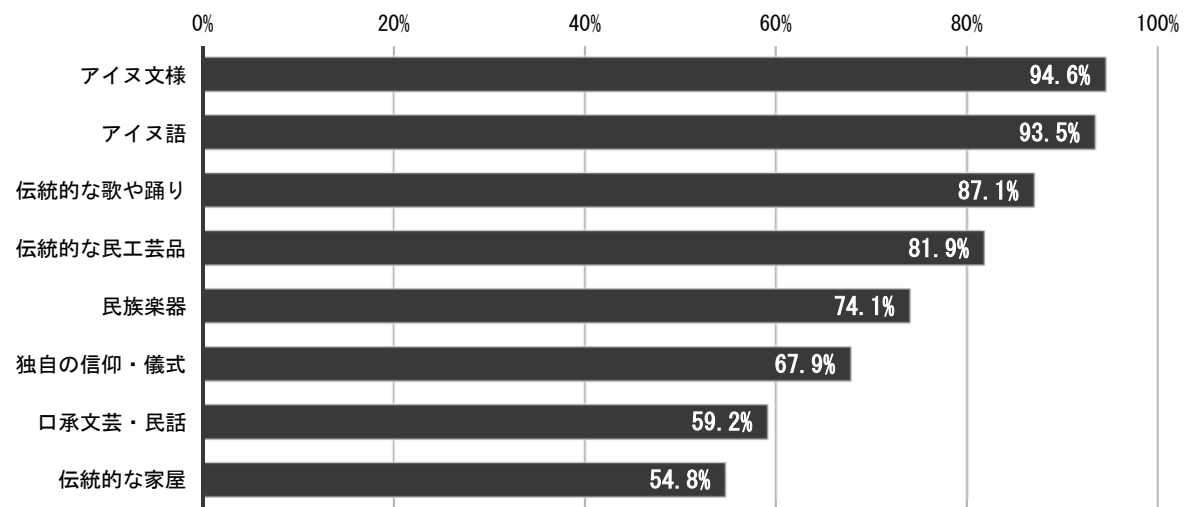
#### ■アイヌ民族の認知度

アイヌ民族について、回答者のおよそ9割が、「知っている」と回答しました。しかし、アイヌ民族の文化的側面については認知度が高い一方、アイヌ民族の歴史的経緯については認知度が低い傾向にありました。また、アイヌ民族の伝統文化については、アイヌ文様やアイヌ民芸品など、文化そのものに関する認知度に比べ、その保存や継承を担うアイヌ民族の存在に関する認知度は低い傾向にありました。



※ 「アイヌ民族について知っている」と答えた方のみ回答

○アイヌ民族について知っていること【文化関係】（複数回答）



※「アイヌ民族について知っている」と答えた方のみ回答

クローズアップ

札幌市アイヌ文化交流センター（愛称：サッポロピリカコタン）

札幌市アイヌ文化交流センターは、平成15年（2003年）、札幌市南区小金湯に設置した体験型のアイヌ文化施設です。北の大地に先住し、独自の文化を育んできたアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる拠点として、アイヌ語で「札幌の美しい村」を意味する《サッポロピリカコタン》の愛称で親しまれています。

館内には、およそ300点にわたるアイヌ民族の民具などを展示するほか、伝統楽器の演奏や舞踊を披露するなど、伝統文化の体験・交流イベントを開催しています。屋外には、アイヌ民族が生活していた家屋などが再現され、伝統的な儀式の場としても活用されています。



館内展示室に展示する民具など

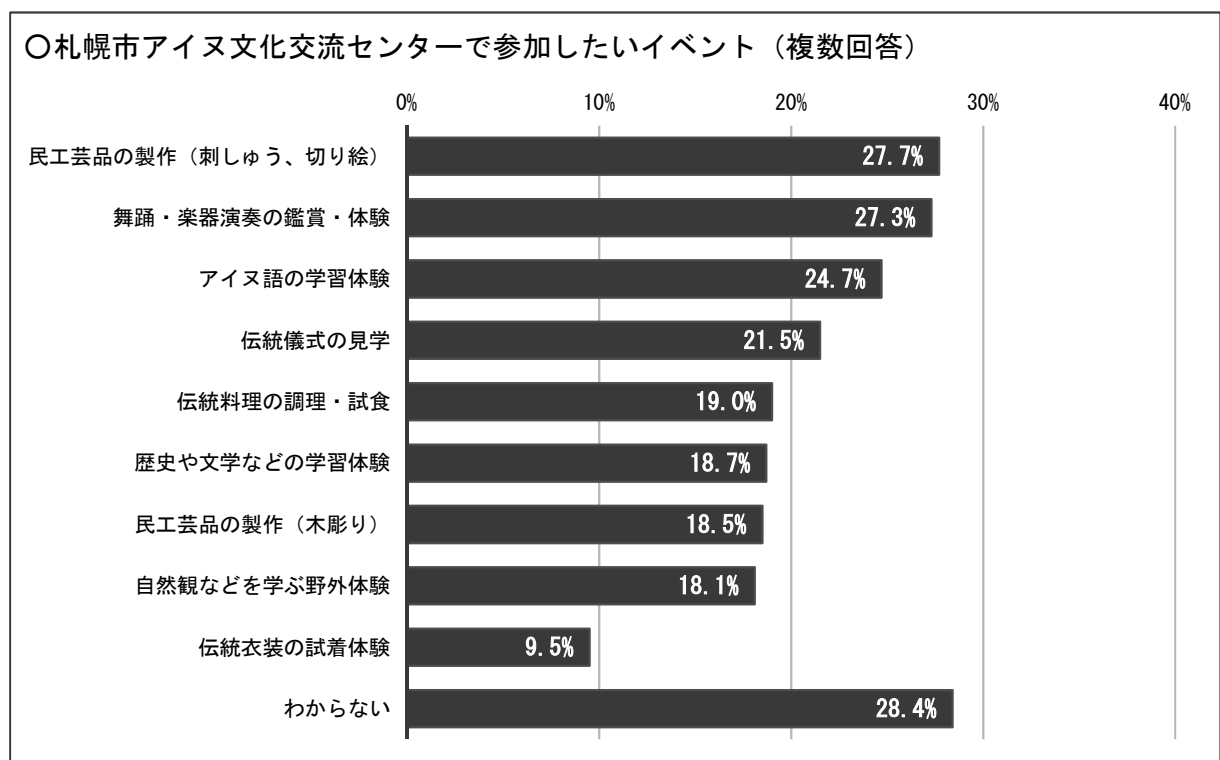
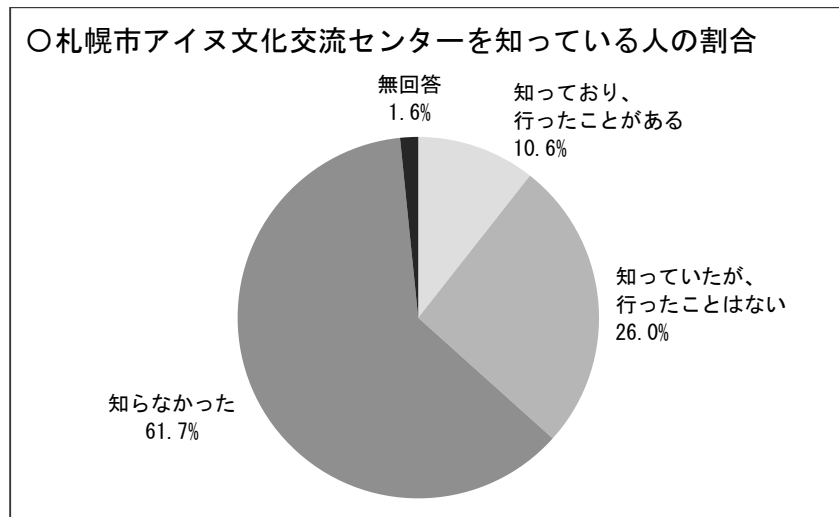


屋外に再現した家屋



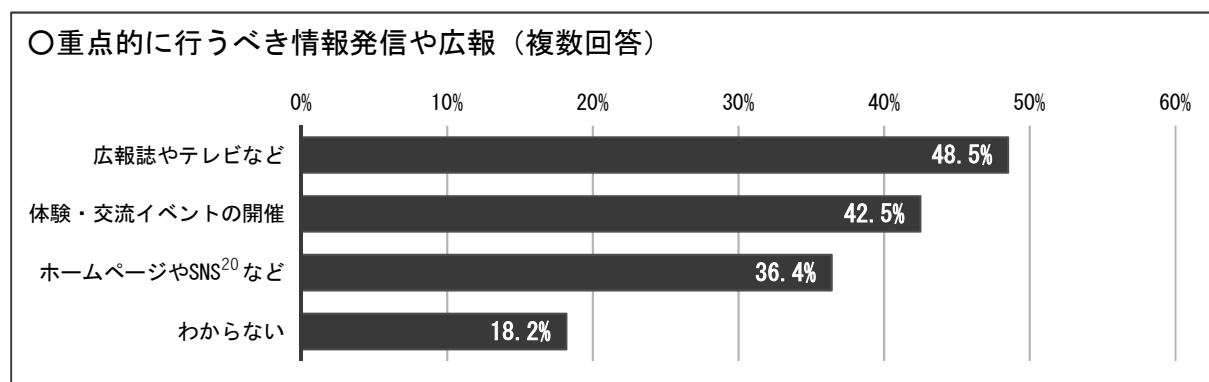
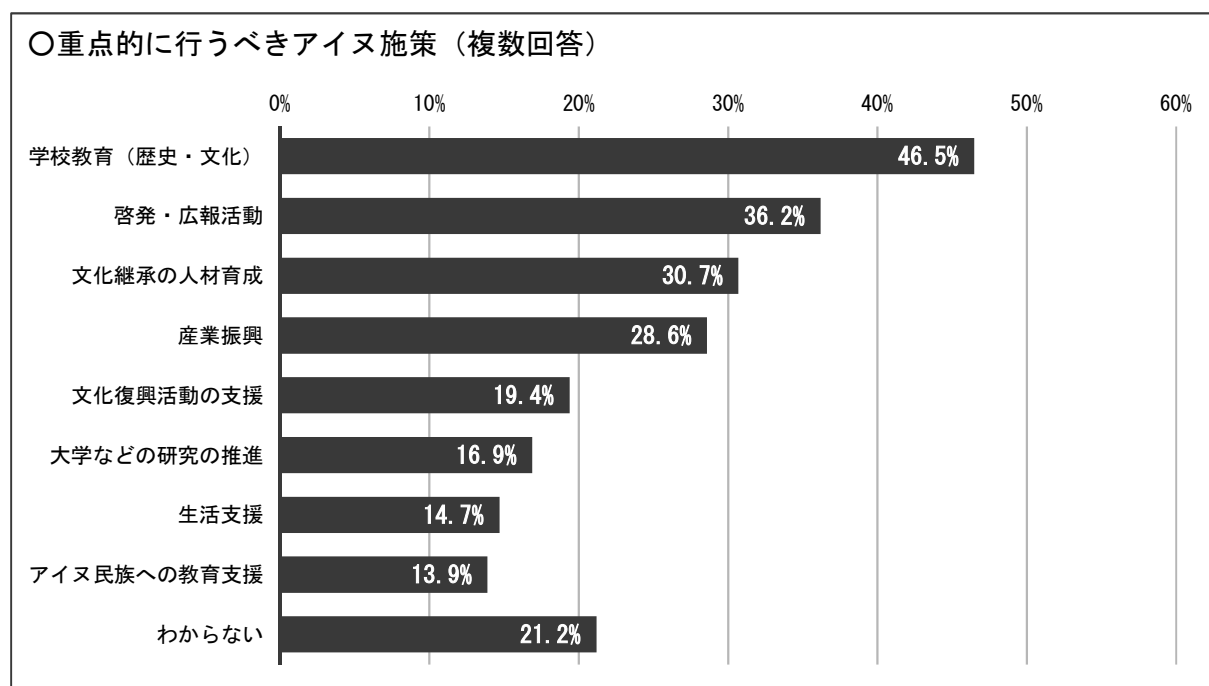
## ■札幌市アイヌ文化交流センターの認知度など

札幌市アイヌ文化交流センターについて、回答者のおよそ6割が、「知らなかった」と回答しました。また、同センターを知っていても、遠方であることなどの事情により、足を運ぶことが難しいとする意見もありました。同センターで開催するイベントについては、気軽にアイヌ文化に親しむことができる内容が好まれる傾向にありました。



## ■重点的に行うべき取組

アイヌ施策として重点的に行うべき取組については、アイヌ民族に関する理解の促進に関わる学校教育や啓発・広報活動を挙げる回答が多く、次いで、アイヌ文化振興に関わる人材育成や産業振興など、アイヌ文化関連の取組が多い結果となりました。また、情報発信や広報の手法については、多くの市民の目に触れる広報誌やテレビなどの媒体を通じた広報を挙げる回答がおおよそ5割となりました。



20 【SNS】Facebook、Twitter、Instagram などのソーシャル・ネットワーキング・サービスのこと。

## 4 課題

これまでに見た前計画の取組や意見交換会、市民意識調査の結果をまとめると、今後のアイヌ施策の展開に当たり、以下のような課題が挙げられます。

### ■伝統文化の継承を担う人材の育成に関すること

区分	留意すべき事柄など
前計画の取組	文化体験講座などの講師を勤める機会の提供などを通じ、伝統文化の担い手の育成を支援してきた。しかし、伝統文化に携わる活動を生業とすることが難しいなどの事情により、人材の育成が十分には進んでいない状況にある。
意見交換会	現在、アイヌ民族の間で、アイヌ語を始め、伝統文化を継承する機会が希少なものとなっていることや、伝統文化の実践・継承を強要されたくないとする意見があった。
市民意識調査	「アイヌ文化や伝統文化の保存・継承・振興などに取り組んでいるアイヌ民族がいること」について知っている人の割合は、回答者のおよそ6割（※）であった。また、重点的に行うべきアイヌ施策として「人材育成」を挙げた人の割合は、およそ3割で、設問中第3位であった。



#### 課 題

アイヌ民族の中でも、伝統文化の継承に関して多様な考え方があることなどに配慮しながら、アイヌ文化の継承を担う人材の育成が必要である。

※ 市民意識調査の結果上、アイヌ民族について「知っている」と回答した人の内数としての割合を掲載しているため、「知らなかった」を選択した人も含めた回答総数から算出し直しています。

### ■アイヌ民族への理解の促進に関すること

区分	留意すべき事柄など
前計画の取組	都心部で開催される大型イベントと連携した啓発事業や、学校教育の中での学習機会の確保など、アイヌ民族に関する理解の促進に向けた取組を推進してきた。こうした取組は、一過性ではなく、継続的な実施が必要となる。
意見交換会	催事開催などに関する広報の手法について工夫が必要であることや、子どもがアイヌ文化を体験する機会を確保することなどに関する意見があった。
市民意識調査	アイヌ民族について知っている人の割合は、回答者のおよそ9割であった。また、重点的に取り組むべきアイヌ施策として、学校教育や啓発・広報活動を挙げる回答が上位であったほか、文化的側面に比べ歴史的経緯の認知度は低い傾向にあった。



#### 課 題

アイヌ民族の歴史や伝統文化などについて、幅広く、また持続的に理解を得られるよう、啓発活動や学習機会の確保を継続的に実施していくとともに、広報の手法に関する工夫などが必要である。

## ■札幌市アイヌ文化交流センターの利用環境の充実に関すること

区 分	留意すべき事柄など
前計画 の取組	札幌市アイヌ文化交流センターへの指定管理者制度の導入に向け、引き続き検討が必要である。
意見 交換会	展示内容をわかりやすく案内する仕組みや、多様な催事の開催が必要であるとする意見があった。
市民意識 調査	札幌市アイヌ文化交流センターを知らなかった人の割合は、回答者のおよそ6割であった。また、参加してみたいイベントは、「わからない」とする回答が最も多かったものの、伝統的な民芸品の製作や、伝統的な舞踊や楽器演奏の鑑賞・体験を挙げる回答が上位であった。



課 題
情報発信などによる、札幌市アイヌ文化交流センターの認知度の向上に加え、展示物の案内手法に関する工夫や、体験・交流の機会を創出するイベントの開催など、利用環境の充実に取り組んでいく必要がある。併せて、指定管理者制度の導入について、引き続き検討が必要である。

## ■アイヌ民芸品の販売場所の設置に関すること

区 分	留意すべき事柄など
前計画 の取組	アイヌ民芸品販売会の実績から、アイヌ文化に関する市民の関心の高さをうかがうことができた一方、アイヌ民芸品作家からは、制作した作品の販路開拓を望む声があった。
意見 交換会	札幌からアイヌ文化を発信する拠点として、アイヌ民芸品の常設的な販売場所の設置を求める意見や、その販売場所では、アイヌ文化を正しく表現した製品を紹介することが大切であるとする意見があった。また、産業振興の観点からは、製品の量産体制を確保することも必要である一方、アイヌ民芸品作家は、アイヌ文化を正しく表現することを大切にしていることに配慮が必要である。
市民意識 調査	「アイヌ民族独自の伝統的な民芸品があること」について知っている人の割合は、回答者のおよそ7割（※）であった。



課 題
市民や観光客が身近にアイヌ文化に親しむことができるよう、アイヌ民芸品が気軽に購入できる、常設的な販売場所の設置が必要である。

※ 市民意識調査の結果上、アイヌ民族について「知っている」と回答した人の内数としての割合を掲載しているため、「知らなかった」を選択した人も含めた回答総数から算出し直しています。

## ■アイヌ民族の交流・継承の場の確保に関すること

区 分	留意すべき事柄など
前計画 の取組	札幌市共同利用館 <sup>※19</sup> の代替施設の確保について、引き続き検討が必要である。
意見 交換会	アイヌ民族の間で、年長者から若い世代に伝統文化を伝えるための機会が希少なも のとなっている、という意見があった。
市民意識 調査	—



課 題
将来にわたってアイヌ民族の伝統文化を継承していくに当たり、幅広い世代のアイヌ民族が集い、交流や伝統文化を継承するための機会や、そのための場として札幌市共同利用館の後継施設の確保が必要である。

上記のような課題の解決に向け、本計画では、前計画で定めた施策目標の基本的な枠組みは引き継ぎながら、新たな施策目標を加え、現状に沿って計画体系の再構築を行います。そして、前計画から引き続き取り組んでいくことが求められる取組のほか、新たな取組を加え、より幅広く、また、長期的な視点を持ってアイヌ施策を推進します。



アイヌ文化体験講座で実施した刺しゅうの講座やエコツアー

※19 【札幌市共同利用館】市民の生活文化の向上や社会福祉の増進を目的として、アイヌ民族からの生活上の各種相談対応などを行う施設。